

野田



九条通信

≡ 日本国憲法 第九条 ≡

《 戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認 》

2025 年 4 月 231 号

野田・九条の会 事務局

☎ 04-7129-4297



野田・九条の会

検索

福島原発事故から14年

災害列島日本原発回帰はできない

福島第一原発事故から14年が経ち、県内外に避難されている人々には復興のゴールが見えていません。

原発施設に流れ込んだ地下水と原子炉の冷却用放射能汚染水は薄めて海洋に流し、核燃料デブリは880トンもある中たつた0.9グラムしか取り出せていません。除染作業で発生した汚染土も敷地内に山積され、少しでも減らすと道路工事や農地整備などの公共事業に再利用する計画です。これらに反対する専門家が、これらに十分説明がなされず、汚染土を拡散することは新たな疑念を生じさせます。

原発施設に流れ込んだ地下水と原子炉の冷却用放射能汚染水は薄めて海洋に流し、核燃料デブリは880トンもある中たつた0.9グラムしか取り出せていません。除染作業で発生した汚染土も敷地内に山積され、少しでも減らすと道路工事や農地整備などの公共事業に再利用する計画です。これらに反対する専門家が、これらに十分説明がなされず、汚染土を拡散することは新たな疑念を生じさせます。

燃料デブリは880トンもある中たつた0.9グラムしか取り出せていません。除染作業で発生した汚染土も敷地内に山積され、少しでも減らすと道路工事や農地整備などの公共事業に再利用する計画です。これらに反対する専門家が、これらに十分説明がなされず、汚染土を拡散することは新たな疑念を生じさせます。

念が生じます。

3月11日は雨の中、官邸前デモが一年ぶりに開催され、原発の最大限活用への転換に怒りの反対を訴える記事を目にしました。

デモでは「事故が起きれば何十年も何百年も影響が残る原発を次世代に残せない」と、

先日電報の原発事故による業務上過失致死傷罪で強制起訴された旧経営陣の無罪が確定しました。世界最悪事故で刑事責任が問われていたが、営利優先の姿勢を容認し、再生可能なエネルギーで安心・安全を推進するよう声をあげて行きましょう。

地震・津波・火山噴火など災害が絶えることのない日本には安全神話はありません。危険な原発の再稼働は、次の世代に負の付けを残します。

本年2月、政府は新たな第7次エネルギー基本計画を閣議決定、事故後に掲げていた

の判決は国民の思いとあまりにもかけ離れていて誰も責任を負わない結果に司法への疑



内閣府 HP

今月の予定です

4月6日(日) 13:30 ~ 16:45

無料上映&ディスカッション 「ひで子と蔵、奪われた58年」

南部梅郷公民館

南地域九条の会

4月9日(水) 16:00 ~ 17:00

9の日行動

九条通信配布とアピール

梅郷駅 自由通路

野田・九条の会

4月12日(土) 13:30 ~ 16:00

野田・九条の会 登戸研究所見学会報告「登戸研究所とは？」

4月例会

樺のホール 研修室

野田・九条の会

4月19日(土) 13:30 ~ 15:30

自由参加

ちょっと暖かな「おしゃべりカフェ」

政治や社会のこと気軽に「おしゃべりしましょう。」

ジャスコ内市民活動活動センター会議室

野田・九条の会

5月11日(日) 13:30 ~ 16:50

無料上映&ディスカッション 「イスラエルとガザの1年」

南部梅郷公民館

南地域九条の会

例会
たより

多岐にわたった皆さんのご意見の一部をご紹介します。

3月の例会(3/15)は録画の「水爆実験60年目の真実〜ヒロシマが迫る埋もれた被爆」を視聴し意見交換を行いました。

- ・米国は反核やアジアの共産化を抑えるため被害の実態を隠蔽した。
- ・原子力は巨大なエネルギーを生み出すが、事故を起こせば大変なことになる。
- ・福島の事故でも、誰も責任をとっていない。東電幹部も無罪となった。
- ・原発は結論の出せない難しい問題。議論を広めると共に、違う意見ほど大事にすること。

➤ 4月例会のお知らせ

4月12日(土) 13:30 ~ 16:00 樺のホール 研修室

意見交換のテーマは「登戸研究所資料館」を見学しての感想、意見などを出し合い行います。初めての方大歓迎です。お問い合わせください。

事務局 田口いく子 04-7129-4297

今年の1月、報道で「失敗の本質」の著者野中郁次郎氏が89歳で亡くなったことを知った。同書の副題は「日本軍の組織的研究」とあり、なんとなく今の閉塞した世相に参考になることがあるのではないかと、古ぼけた文庫版を読み返してみた。たび重なる作戦の失敗があり、そしてそのあとがきからの示唆に^{うなず}頷かされてしまった。

多くの人が、このところの物価上昇や日本が衰退しつつあることに不安を感じている。同書で日本軍が失敗したのは軍部が「組織内の融和と調和を重視し、その維持に多大のエネルギーを投入し」と述べ、「エリートには、究極的な思考が脆弱^{ぜいじやく}であった」そして変革できる者はほとんどいなかったと断言している。

バブル崩壊後30年、日本を結果的に衰退させてきたのは偏った政策を行ってきた政府・官僚にあるのではないかとの疑念を抱く。戦後の80年代までは順調に国民生活の向上を実現させてきた。

だが97年を境に橋本政権の消費税5%増税で経済成長が停止、財務省主導の日本は財政破綻するとし、収支の均衡(PB)に固執してしまった。財政締め付けは多くの国民を生活苦に陥らせてしまい8%、10%の消費税増税でさら

に苦境に陥らせている。これは戦後の新たな失敗と言えるのではないか。旧日本軍は失敗を認識せず責任を不明にし改めることもできなかった。自公、財務省は軍部の失敗が教訓となっていないと言える。このまま行けば「新しい戦前」ならぬ「新しい敗戦」を招きかねない。

希望ある暮らしは取り戻せる

ジャパンアズナンバーワンであった日本はいまや後追いする立場になってしまった。

同書のあとがきは執筆者一同として「フロンティアとしてわが国は新たな時代を切り開けるか」と期待感を持って私たちに問うている。

今は残念というしかないが、問題は消費税増税そして財政収支の均衡で、このところネットや財務省前のデモなどで足元から切実な声上がり始めている。希望溢れる暮らしは必ず取り戻せる。



私たちは国の財政政策に関心を持ち知ることに努めなければならないと思う。

卒業写真

鈴木由紀枝

平和のつどいの展示の最終日は、14年前のあの3.11の日。新婦人の仲間たちと誘い合わせ、やっと見に行くことが出来た。

スタッフの丁寧な説明を、一つひとつ聞きながら真剣に耳を傾けた、一応戦後生まれの私たち。日佐戸輝さんが残してくれた戦争語り部の会の写真のなかに、野田高校の教師だったミセス遠藤と長沼先生を見つけ、懐かしい思いに駆られた。

玉葱の匂いが部屋中に溢れていた美術室、映画『橋のない川』のポスターが貼られていた美術室大好きだった場所。そこに置かれていた「わかもの」という雑誌を目当てに出入りして

いた先輩もいたらしいが、私にとっては絵を描く場所でしかなかった。

岡林信康の「手紙」を全校合唱コンクールで、歌ったのはどのクラスだったか。ユーミンの歌のように、皮の表紙ではなかったので、触れると紫色の布片が指を汚した1970年の卒業アルバム。モノクロのアルバムの中には、ミセス遠藤も長沼先生も、そして私も確かに写っていた。

校庭で撮られた女子50人のクラス写真、美術部の仲間と一緒にの写真、ひっそりと一番後ろに立っていた私がいた。

憧れの天文台も一緒に消えてから、どれくらいの歳月が経ったのだろう。

